

1. オピオイドとは

オピオイドとは、阿片^{アヘン}（オピウム opium）が結合する受容体（オピオイド受容体）に親和性を示す化合物の総称である。オピオイド受容体は一般的に μ , δ , κ 受容体の3つのサブタイプに分類され、末梢神経、脊髄、脳の広範囲の神経系に分布する。各々の受容体の関与する薬理学的作用を表1に示すが、モルヒネがすべての受容体に親和性を示す一方、一部の受容体へ強い親和性を示すオピオイドも存在する。オピオイド鎮痛薬を処方するにあたっては、各々のオピオイド受容体の関与する薬理学的作用の特徴を熟知し、各種オピオイド鎮痛薬の各々のオピオイド受容体への親和性を理解することが重要である。

非がん性慢性[疼]痛におけるオピオイドの鎮痛薬としての作用は、神経系に分布するオピオイド受容体に作用して、主として内因性の下行性抑制系を賦活することと侵害受容伝達の亢進を抑制することで痛みを緩和するもので、非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）のように、プロスタグランジン類の産生を抑制して炎症を抑え、解熱・鎮痛作用を示す薬物ではない。また、アセトアミノフェンのように中枢神経系に作用し解熱・鎮痛作用を示す薬物でもない。

以下に、本邦および本ガイドラインにおける、麻薬、オピオイド等の用語の定義について記載する。

オピオイド：オピオイド受容体に親和性を示す化合物の総称。

オピオイド受容体：オピオイド系薬物と特異的に結合する受容体。

オピオイド鎮痛薬：鎮痛を目的として処方され、使用されるオピオイド。

麻薬：もともとはアヘンやアヘン様化合物から合成誘導され、服用により精神と行動の著しい変化および依存性と耐性の可能性を伴う強力な鎮痛作用を持つすべての薬物をいう。合成あるいは天然の薬物で、アヘンやアヘン誘導體と作用が類似している化学物質も含まれる。

医療用麻薬：本邦の「麻薬及び向精神薬取締法」と「薬事法」で医療用に使用が許可されている麻薬をいう。ケタミンは医療用麻薬に指定されているが、麻薬（オピオイド）ではないため本ガイドラインでは言及しない。

表1 各種オピオイド受容体の関与する薬理学的作用

薬理学的作用	μ オピオイド受容体		κ オピオイド受容体	δ オピオイド受容体
	μ_1 オピオイド受容体	μ_2 オピオイド受容体		
鎮痛	○	○	○	○
鎮静		○	○	○
便秘		○		
嘔気・嘔吐	○		○	
呼吸抑制		○	○	○

アヘン：けしの実の液汁が凝固したもの、およびこれに加工を施したものをいう。モルヒネ、コデインやノスカピンなど約20種類のアルカロイドが含まれる。

向精神薬：中枢神経に作用して精神機能に影響を及ぼし、乱用の恐れ、および乱用された場合の有害性の程度が麻薬および覚せい剤より低いもので、本邦の「**麻薬及び向精神薬取締法**」と「**薬事法**」により指定されたものをいう。

覚せい剤：眠気と疲労を除去し、一時的に作業効率を高める作用を有する薬物で、本邦の「**覚せい剤取締法**」によって規定されているフェニルアミノプロパン（アンフェタミン）、フェニルメチルアミノプロパン（メタンフェタミン）がこれに相当する。本邦では、限られた疾患にのみ使用可能な医療用覚せい剤としてメチルフェニデートがある。

習慣性医薬品：連用により習慣性のおそれがあるとして厚生労働大臣が指定する医薬品の総称。一部のオピオイド（ブプレノルフィン塩酸塩 [レペタン[®]]、コデインリン酸塩 [リンコデ[®] 1%]) が含まれる。